



Title	IDUN II 刊行にあたって
Author(s)	岡田, 令子
Citation	IDUN. 1974, 2
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/95898
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

IDUN II の刊行にあたって

長い間の念願がようやくかない、私たちの語科誌、IDUNが誕生したのは、昨年の9月でした。ふり返ってみると、何分初めての試みでしたので、不充分なところが多く、決して満足なものではありませんでしたが、各方面の方々から非常に有益な御意見や、御指摘を頂くことができましたことを、心から感謝しています。

ここに又、続いてIDUNの第二号をお目にかける運びとなりましたが、この度は特に、デンマーク大使館の御好意によりまして、目下日本に留学中のコペンハーゲン大学学生のRohdeさんの原稿を頂くことができました。

この記事には、大学の運営面における学生の位置や役割といったことについての新しい動きや、寄稿者の意見なども述べられていますが、最近のデンマーク社会は流動的で、色々な方面で、大きな変化が起こっているようです。新聞などの報ずるところによりますと、今迄、エリート教育のみ向けていた大学も、四番目に設立されたロスキル大学ではすべての社会人のための高等教育機関を目指して、これ迄の授業方法や運営面での反省と改革の努力が払われているようです。

今年度の大学入学資格のための国家試験では、若い人たちにまじって、五十三才の女性が、論文で最高点を取ったと云うのですが、問題は、六問中五問までが、現代の工業文明と、その他の文明との接触に関する問題であって、受験者たちに、ヨーロッパの文明の価値を改めて問い合わせせるものようです。又、アイスランドのノーベル賞受賞作家Halldór Laxnessの描くグリーンランド、アイスランドの社会や、デンマークの女流作家Cecil Bødkerの力作で、エチオピア社会を取り扱った文学作品などを材料として、ヨーロッパの文明と、他の文明との現在及び将来の関わり方を考えさせています。

文学の方面では、世界中の人々に親しまれている詩人、H.C.Andersen の日記がほとんど完全な形で、十冊程にまとめられ、来年中には全巻が出揃うのだそうですが、その中の数冊が美しい装幀で、もう既に私たちの研究室へも送られて来ています。ここから彼の日常生活の新しい一面をうかがい、Andersen の芸術を異った角度から見直すことができるのではないかと考えています。

今後共、デンマークの方からの御協力をも得て、この国の事情を紹介しながら I DUN がささやかながら両国を結ぶかけ橋ともなればと希わないではいられません。

さて、当語学科では、この四月に新しく五名の女子とそれに倍する男子の学生を迎えたが、各自が何らかの目的と自覚を持って入学して来ている様子なので喜んでいます。そして、毎年、数名の者が夏休みを利用したりして、実際にデンマークの社会と生活にふれようと意気込んで出かけて行きます。

このような語科の有様をみるにつけても、I DUN の内容を充実させてゆかなければと思っています。皆様方の御指導と御鞭撻をこれからも頂けますよう願って、筆を擱きます。

1974 年 10 月

大阪外国语大学デンマーク語学科

主任 岡田令子